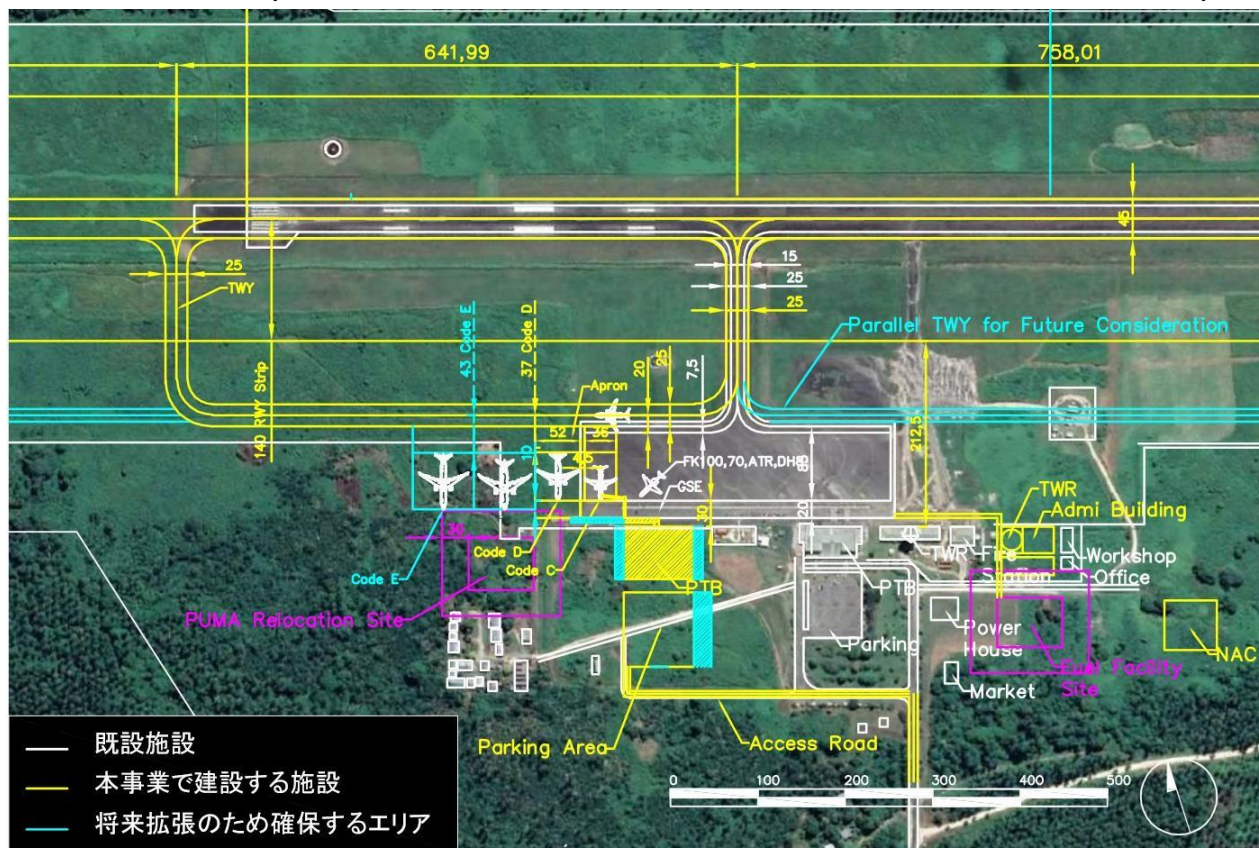


出典：JICA 調査団

図 3.2.1 代替案1 (既設エプロンを西側へ拡張し、その前面に新設旅客ターミナルを配置する案)



出典：JICA 調査団

図 3.2.2 代替案2 (既設エプロンの前面に新設旅客ターミナルを配置する案)

表 3.2.1 代替案の比較

項目	代替案1	代替案2	事業を実施しない案
経済、 需要面	将来予測される航空需要の増加に対応できる。また、新設旅客ターミナル、搭乗橋などを新設することで旅客の利便性を向上させ、ENB 州の観光促進、経済成長に資する。	同左	増加する将来の航空需要に対応できず経済成長の機会を失う。既設のターミナルでは旅客の処理能力が不十分であり快適性が失われる。「」国 ENB 政府が推進する観光政策に支障が生じる。
	+	+	-
運用 安全面	既設エリアに影響を及ぼさないため、建設中の空港運用に支障をきたさない。 既設エプロン前面を利用して将来的に、航空機整備用のハンガーを建設するなど拡張余地がある。	代替案1 に比較して、既設エプロンを使用しながら舗装の一部をコンクリートへ変更する必要があるため、混雑時に駐機航空機数に制限が生じ空港運用に支障が生じる。 代替案1 に比較し、将来拡張用地が限定される。	滑走路長、幅、強度は、国際線航空機材大型化には対応できないため、就航機材に限られるまま旅客数の伸びに対応する必要が生じ離着陸回数の増加、エプロンの混雑が生じる。
	++	+	-
技術面	特に技術面での問題は生じない。	既設エプロンをコンクリートへ打ち換える必要があり、既設アスファルト舗装の表層、基層、路盤を入れ替える必要が生じる。 駐機航空機の尾翼が転移表面にかからないように計画高を下げる必要がある	N/A
	++	+	-
費用面	代替案2 と比較して大きな差は生じない。	構内道路が代替案1 よりも約100m 程度短くなるが、大きな差は生じない	建設費及び施設建設に伴い移設が必要となる施設の移設費が必要なくなる。
	+	+	+
環境社会面	代替案2 と比較するとエプロン、旅客ターミナル建設時に既存建物及び樹木への影響がやや大きい、大きな差は生じない。	代替案1 と比較して既存建物及び樹木への影響はやや小さいが、既存アスファルトを撤去した際にアスファルト等の建設廃棄物が生じる。	旅客需要が増加する中、既設の汚水、廃棄物処理能力の施設を継続使用することで環境への悪影響が生じる。
	+	+	-

出典：JICA 調査団

以上の結果から、費用面、環境社会面では代替案1, 2にほとんど差がなく、運用安全、技術面を考慮し、代替案1 を採用することとする。また、事業を実施しない案は、今後航空需要の伸びが予測される中、観光需要を十分に取込めないなど地域経済、空港運用の観点から想定される負の影響が大きい。このため「事業を実施する」ことが望ましいと判断される。

表 5.2.1 事業関連施設（土取り場、碎石場）に対するスコーピング（評価理由）

影響分野	№	影響項目 (JICA項目)	評価	評価理由
			工事前 工事中	
公害	1	大気汚染	✓	搬入・搬出車両／重機の稼働により、大気質に一時的な負の影響を与えられ る。
	2	水質汚濁	✓	排水路が未整備の場合、降雨時に周辺水源に影響を与える可能性がある。
	3	廃棄物		廃棄物を発生させる活動は想定されない。
	4	土壌汚染	✓	重機、搬入・搬出車両からの油漏れ等による軽微な土壌汚染の可能性があ る。
	5	騒音・振動	✓	搬入・搬出車両／機械の稼働により、騒音・振動が発生すると考えられ る。
	6	地盤沈下		地盤沈下を発生させるような活動は想定されない。
	7	悪臭		悪臭を発生させるような活動は想定されない。
	8	底質		底質を悪化させる活動は想定されない。
自然環境	9	保護区	✓	土取り場、碎石場及びその周辺に保護区が存在する場合、影響を与える可能 性がある。
	10	生態系	✓	土壌及び碎石の採取量が想定を超過する場合、掘削の範囲が拡大して生態系に影 響を与える可能性がある。また樹木伐採の可能性もある。
	11	水象		水象に影響を与える活動は想定していない。
	12	地形・地質	✓	事業区域に貴重な地形・地質が存在する場合、影響を有する可能性がある。
社会環境	13	用地取得及び 住民移転		自治体登録済みの土取り場や碎石場を使用予定のため、用地取得及び住民移転は発 生しない。
	14	貧困層	✓	周辺に貧困層が居住している場合、影響が考えられる。
	15	少数民族・先住民 族	✓	周辺に少数民族・先住民が居住している場合、影響が考えられる。
	16	雇用や生計手段等 の地域経済		雇用や生計手段等の地域経済に影響を与える活動は想定していない。
	17	土地利用や地域資 源利用	✓	土壌及び碎石の採取量が想定を超過する場合、掘削の範囲が拡大することによる周 辺の地域資源へ影響が考えられる。
	18	水利用	✓	土壌及び碎石の採取量が想定を超過する場合、掘削の範囲が拡大することによる周 辺の水利用への影響が考えられる。
	19	既存の社会インフ ラや社会サービス	✓	周辺に影響を受けやすい地域(住居、学校、医療施設等)がある場合、搬入・搬出車 の増加に伴う交通事故の増加が懸念される。
	20	社会関係資本や地 域の意思決定機関 等の社会組織		社会関係資本や地域の意思決定機関等の社会組織に影響を与える活動は想定して いない。
	21	利益と被害の偏在		利益と被害の偏在について、影響を与える活動は想定していない。
	22	地域内の利害対立	✓	土壌及び碎石の採取量が想定を超過する場合、掘削の範囲が拡大することによる所 有者と周辺住民(存在する場合)間で利害対立が生じる可能性がある。
	23	文化遺産	✓	土取り場、碎石場及びその周辺に文化遺産が存在する場合、影響を与える可能 性がある。
	24	景観	✓	土壌及び碎石の採取量が想定を超過する場合、掘削の範囲が拡大することによる周 辺景観へ影響が考えられる。
	25	ジェンダー		ジェンダーについて、影響を与える活動は想定していない。
	26	子供の権利		子供の権利について、影響を与える活動は想定していない。
	27	感染症		感染症について、影響を与える活動は想定していない。
	28	労働環境(労働安 全を含む)	✓	関連法令に従い、労働環境を確保する必要がある。
その他	29	事故	✓	搬入・搬出車両がトクア空港までの幹線道路を利用するため、交通事故が増加する 可能性がある。
	30	越境の影響及び気 候変動		大規模な森林伐採や温室効果ガス排出量の増加等、気候変動への影響は想定され ない。

注) ✓：要調査、空白：調査不要（但し✓は現時点で評価不明の項目も含まれる。）

出典：JICA調査団

表 5.2.2 事業関連施設（送電線敷設）に対するスコーピング（評価理由）

影響分野	№	影響項目 (JICA項目)	評価	評価理由
			工事前 工事中	
公害	1	大気汚染	✓	工事車両／重機の稼働により、大気質に一時的な負の影響を与えられられる。
	2	水質汚濁	✓	排水路が未整備の場合、降雨時に周辺水源に影響を与える可能性がある。
	3	廃棄物	✓	工事による廃棄物が発生する可能性がある。
	4	土壌汚染	✓	重機、工事車両からの油漏れ等による軽微な土壌汚染の可能性がある。
	5	騒音・振動	✓	工事車両／機械の稼働により、騒音・振動が発生すると考えられる。
	6	地盤沈下		地盤沈下を発生させるような活動は想定されない。
	7	悪臭		悪臭を発生させるような活動は想定されない。
	8	底質		底質を悪化させる活動は想定されない。
自然環境	9	保護区	✓	計画される送電線ルート及びその周辺に保護区が存在する場合、影響を与える可能性がある。
	10	生態系	✓	計画される送電線ルートによる森林伐採等が生じる場合、生態系に影響を与える可能性がある。
	11	水象		水象に影響を与える活動は想定していない。
	12	地形・地質	✓	計画される送電線ルート上に貴重な地形・地質が存在する場合、影響を有する可能性がある。
社会環境	13	用地取得及び住民移転	✓	計画される送電線ルート次第で用地取得及び住民移転が発生する可能性がある。
	14	貧困層	✓	計画される送電線ルート上に貧困層が居住している場合、影響が考えられる。
	15	少数民族・先住民	✓	計画される送電線ルート上に少数民族・先住民が居住している場合、影響が考えられる。
	16	雇用や生計手段等の地域経済	✓	計画される送電線ルートによっては雇用や生計手段等の地域経済に影響を与える可能性がある。
	17	土地利用や地域資源利用	✓	計画される送電線ルートによっては地域資源へ影響を与える可能性がある。
	18	水利用	✓	計画される送電線ルートによっては水利用に影響を与える可能性がある。
	19	既存の社会インフラや社会サービス	✓	周辺に影響を受けやすい地域（住居、学校、医療施設等）がある場合、搬入・搬出車の増加に伴う交通事故の増加が懸念される。また工事の進捗により、一時的な停電が発生する可能性がある。
	20	社会関係資本や地域の意思決定機関等の社会組織		社会関係資本や地域の意思決定機関等の社会組織に影響を与える活動は想定していない。
	21	利益と被害の偏在		利益と被害の偏在について、影響を与える活動は想定していない。
	22	地域内の利害対立		地域内の利害対立について、影響を与える活動は想定していない。
	23	文化遺産	✓	計画される送電線ルート上に文化遺産が存在する場合、影響を与える可能性がある。
	24	景観	✓	計画される送電線の高さによっては周辺景観への影響が考えられる。
	25	ジェンダー		ジェンダーについて、影響を与える活動は想定していない。
	26	子供の権利		子供の権利について、影響を与える活動は想定していない。
	27	感染症		感染症について、影響を与える活動は想定していない。
	28	労働環境（労働安全を含む）	✓	関連法令に従い、労働環境を確保する必要がある。
その他	29	事故	✓	工事車両がトクア空港までの幹線道路を利用するため、交通事故が増加する可能性がある。
	30	越境の影響及び気候変動		大規模な森林伐採や温室効果ガス排出量の増加等、気候変動への影響は想定されない。

注) ✓：要調査、空白：調査不要（但し✓は現時点で評価不明の項目も含まれる。）

出典：JICA調査団

